サービスラーニング活動報告書
テーマ　　学童保育の役割と今後の課題

活動先名：　NPO 法人プレママクラブ　学童保育所みんなのき

1.　活動先紹介・私達の活動内容

①　まず、「学童保育みんなのき」（以下、みんなのき）が出来た経緯について紹介します。石川理事自身にもお子さんがみえ、子育てに追われる生活が続いて、自分の時間が持てない時期があったそうです。そんな時、自宅横の空いている倉庫を利用して託児所付きの教室を始めたのがきっかけで次第に地域の反響や期待も大きくなっていきました。しかし、個人では限界があった為、行政の力を借り NPO 法人格を取り現在のプレママクラブに至るようです。

「みんなのき」は、プレママクラブ中にある施設です。今年の４月にオープンしたばかりの新しい施設で１から建てられたものでした。真新しい施設内には、広いプレイルームや調理室、駄菓子屋があり、習い事では（英語教室・ピアノ教室・塾・英検教室・書き方教室）も敷地内で行える様になっていました。またグランドや畑も完備され、子ども達が伸び伸び活動出来る空間がありました。障害を抱えた子どももみえましたが、一緒に活動したり、個別に遊んだりとその子の特性に合わせた支援が行われていました。

「みんなのき」以外にもプレママクラブ内には、学童保育が３か所、認定保育所である保育園が２か所、プリスクールが２か所あります。プリスクールとは、生活の全てを英語で展開する保育・教育施設です。

②　活動内容として、「みんなのき」の一日の生活は下記の通りです。

～８時	開所
８時５０分	朝の会、朝の体操
９時	勉強
１０時	フリースクール（内、外遊び）
１１時４５分	片づけ、昼食の準備
１２時	昼食
１３時	読書
１３時３０分	イベントタイム
１６時	おやつ
１６時３０分	掃除
１７時	帰りの会
１８時３０分～	延長保育
１９時	閉所

始めの３日間は８時～１６時、残り３日間は１０時～１８時といった時間帯で活動しました。親子さんとのバーベキュー交流では１９時３０分まで活動しました。

主な企画では…

- ちぎり絵
- 半田図書館で本を読みに行く
- 野外でのカレー作り＆外での食事
- 工作（折り紙とB紙を使ってみんなのき動物園を作る）
- 町探検して地図を作る
- 親子さんとのバーベキュー
- 児童館で遊ぶ
- おやつ作り
- 紙芝居の朗読

に参加しました。最終日の6日には、学生のみで保育体験をさせてもらいました。

2. 当初の活動目的、目標

- 活動を通してNPOとしての経営や人材育成の課題を知る
- 地域福祉の中での学童保育の役割を学ぶ
- 現代の家族が抱える問題を知り、それぞれの子どもに合わせた支援を学ぶ

3. 活動を通して地域の実態、理解と気づき、疑問、問題点、活動の提案

活動を通して「みんなのき」の存在が地域の親さんには不可欠なものであり、また信頼されている施設であると感じました。子ども達の中には、夏休み期間であっても早朝から預けなければいけなかったり、夜晩くにしかお迎えに来れない方もみえました。土曜日の学童の利用は少ないですが、預けられている子どももいました。しかし、子ども達の表情をみると、とても明るく、寂しそうな顔をする子は一人もいませんでした。そうした背景には、職員さんの努力や工夫がある様と実際に活動させてもらい気づきました。子ども達に何をしたら喜んでもらえるか、またどうしたら興味関心を引けるかを真剣に考えらえる姿勢にプロとしての支援をする事を学びました。社会の変化や家族の在り方などで家庭だけでは子育てが難しい状況にきている様に思います。学童目標・方針にもある様に家族に代わる毎日の生活の場という視点はとても大切な事だと思います。また、共働き世帯の方々や子どもを安全な場所で遊ばせたいと思われている親さんの為にも学童の存在意義といったものは大きい様に感じました。

地域との交流といった面でも、バーベキューを親子参加で企画したり、老人クラブさんとの交流会、他にもバスツアーで遊びに行ったりと外部との交流も積極的に取られてみえました。子ども達で作った作品を地域の展示するといった活動もされていました。

私の提案としては、「みんなのき」の場所が郊外にあり、割と奥まった所にあるので、もっと地域の方に知ってもらえるといった視点で大きな看板を設置してもいいかと思いました。

4.　地域活動から学んだ地域福祉、私達の思い、考え方

４月～７月では、まずNPOとは何かから学びました。個人の思いから市民活動になりNPO活動へと繋がっている事、NPOの収入源は、寄付金や助成金、補助金から成り立っている事が分かりました。支援を行う対象が、国の制度では救えない人や居場所がない方への居場所作りといった視点も大きい事も理解できました。NPOバスツアーでは、「ゆめじろう」・「孝行の会」・「りんりん」を見学しました。ゆめじろうではコロッケの移動販売をされ、地域に知ってもらう努力をされていました。りんりんでも今後、喫茶店作りや道の駅を作って地域との交流や定年後でもできる仕事作りに尽力されてみえました。孝行の会でも教えてもらう姿勢の大切さを学びました。NPOは財政面で厳しく人の確保も難しいとの事でした。だからこそ、地域に活動を知ってもらい参加してもらう事が大切であると感じました。サービスラーニング１期生との交流では、自己学習や振り返りの必要性について、またNPOの活動によって新しいサービスや価値観が生み出される事を教えてもらいました。活動先で実際に行う企画についての相談や自分達は、何が学びたいかなどグループ内や活動先担当者の藤田さんと話し合っていきました。大前提には、子ども達に楽しい時間を過ごしてもらい夏休みのいい思いで作りを目標にしました。しかし、企画をするにあたりたくさんクリアしなければならない課題が見えてきました。タイムスケジュールはどうするか、材料は何が必要か、またどこまで活動先が用意してもらえるか、この企画事態、本当にできるのかといった問題が出てきました。職員の藤田さんに子ども達の作業は大人の２倍かかる事や完璧な企画でも何が起こるか分からない為、７割で考えておく必要がある事を教わりました。そして、夏休み期間中に６日間「みんなのき」で活動しました。

実際に活動してみて、当初の目標であった子ども達に楽しんでもらう事に関しては達成できた様に感じましたが、その他の、危険予測や周囲への配慮といった視点がかけていて職員の方々にたくさんフォロしてもらいなんとかやり遂げる事が出来ました。私達が行った企画でも、時間配分がうまくいかず、大幅に予定時間を超えてしまったりしました。実感として実際に企画を行っていく難しさを知りました。また、自分達には、子ども達の興味関心を引くユーモアであったり、工夫といった面で足りない所は多々ありました。しかし、活動を通して実際に地域に出て活動もさせてもらったり、親子さん参加のバーベキューに参加させてもらい、いろいろとお話しする事もできたのでとても貴重な経験になりました。

これまでの活動を通して、これからの地域福祉には学童保育は欠かせない存在である様に感じました。自分の問題から地域へ展開し、サービスや資源がなく困っている人達の声を聞いたり、行政に訴え、新しいものを生み出す事ができる団体がNPOである事が分かりました。

5. 今後の学びで何をテーマにしたいか？また、抱負と研究テーマの設定

私は、活動後の学内交流で石川理事がお話しされていた、これからの NPO はボランティアではなく、事業としてとらえる必要があると言われた言葉が印象に残っています。その為には、経営についても学ばなければならないし、事業を大きくしたいならスタッフも守らなければならないとも言われていました。その意味を自分なりに考えていきたいです。しかし、NPO 事業とは、どこもが資金難を抱えています。私は地域間でも格差がある行政の支援にも問題があるのではないかと考えます。NPO 事業を行うにあたり、なぜもっと充実した支援が提供できないかといった問題にも今後取り組んでいきたいです。

活動の様々な場面を通して、自分の目で見て学びあうことの大切さ、コミュニケーシの大切さを教えていただく機会になりました。また、何度も計画をみなをしたけれど限られた時間にできないこともたくさんあり、一つの計画を立てるということにマネジメントも必要だと気付きました。このマネジメントの考えを持って福祉の活動、仕事を考えていきたいと思いました。